

エッセー・時評  
**耕土 興論**

公益財団法人秋山記念生命科学振興財団は、長く北海道において若手の医学、薬学を中心に、幅広い生命科学に携わる研究者の活動を研究助成により支えてきている。

近年は、幅広い草の根の地域社会活動にも支援の輪を広げてきているが、昨年度新たに北海道で輝く地域社会づくりに挑戦する女性を顕彰する秋山喜代賞を創設した。財団の設立者で、北海道の先駆的な女性経営者である秋山喜代にちなんだ賞であるが、その第一号に選ばれたのが、道東の釧路管内浜中町で酪農を営む竹内美妃さんだ。

**小磯 修二** 地域政策プランナー

**北のナイチンゲール**

竹内さんは、東京出身だが、26年前に「主人と一緒に北海道での酪農を志して浜中町に入植し、放牧型の酪農を営んでいる。当初は地元の診療所で看護士としても働き、そこで僻地医療に取り組む道下俊一医師と出会い、津波災害による医療支援や僻地医療、看護の大切さを学んだ。

その後、看護士の経験を生かして、地元の農協などと連携して、酪農地域の高齢者の人々の生活支援として独自の「デイサロン」活動を展開し、今では農村における高齢介護福祉の先駆モデルとして注目されている。

国内外の緊急医療支援活動にも積極的に参加し、インドネシアのスマトラ島沖地震やフィリピンのレイテ島の大規模地滑りなど海外での災害現場

場にも飛び込むなど、国際的な災害看護の分野でも実践的な活動が続いている。

また、仕事や活動の間を縫って、日本赤十字北海道看護大学で看護学修士、札幌医科大学で医学博士を取得し、災害看護、国際看護、地域看護の分野での研究者、教育者として歩み始めている。

私と竹内さんとの出会いは、20年以上前になる。釧路公立大学時代に、私が中央アジアでの支援活動の報告会を開催した折に参加してくれた。地方で足元の課題に真剣に向き合っていることが、海外で困窮している地域の支援にも生かせるというメッセージに竹内さんは強い関心を持ってくれた。

その後も、酪農業を続けながら着実にキャリアを積み上げ、内外での地域活動経験を生かし、課題解決に向き合う研究者として挑戦してきている。秋山喜代賞の第一号にふさわしいものだ。

竹内さんとの交流は今でも続いている。私が昨年からの活動をはじめた北海道文教大学には看護学科があり、その研究者と一緒に来月開催する看護学会の地方集會に竹内さんを講師に招いてフォーラムを開催する予定だ。

看護の専門家や看護職を目指す人々に、地域の課題に向



こいそ・しゅうじ  
地域政策プランナー、北海道文教大学地域創造研究センター長。地域研究工房代表理事、北海道ガス社外取締役、元釧路公立大学長。地域開発政策、地域経済を専門とし、国内外で地域政策の研究活動に携わる。中央アジアなどでの開発支援にも取り組む。

き合う姿勢の大切さと世界に羽ばたく醍醐味(だいごみ)を感じてもらえよと思っ

また、竹内さんは、今年から帯広天谷短期大学の地域看護分野で教壇に立つ。十勝の人々にもぜひ、竹内さんの経験に触れてほしい。

ナイチンゲールは、クリミア戦争での従軍看護の経験を生かして看護医療統計分野の研究者として功績を残した。竹内さんが、人口減少、高齢化に伴う地域課題が多様化していく時代に向けて、医療、看護、福祉の垣根を越えた新たな領域を切り開いていく北海道の研究者として羽ばたくことを期待している。